
オモイノタネ 6 上

風紙文

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

オモイノタネ 6 上

【Nコード】

N57290

【作者名】

風紙文

【あらすじ】

思いを込めて育てると、その人が欲したものが出来上がる不思議な植物の種子『発明の種』

その流行の波が過ぎた今日、また新たな流行の波が現れていた。

それには、発明を持たないある少女と、ある一つの発明が関係していた。

(前書き)

今回のお話は、上下二回に分けて投稿します。

そこまで長いわけではないのですが、作った時を再現するために分けさせていただきました。

次投稿の下を読む前にこちらをお読みください。

…またか。

俺達が昇っている階段、の更に上の階段を先生が上がっている。
手にはバケツを持って…。

そして、

「あ！」

先生が持っていたバケツが上から降ってきた。

別に手を振っていた訳でも、手すり以上の高さ上げて持っていた
訳でもないのに、何でだろうな…。

そしてそれは必ず、俺の真上に落ちてきて、頭に当たる…。

ガン

…お？

バケツは、俺の横に落ちた。

「わぁゴメン！ 大丈夫！？」

「は…はい。当たりませんでしたし…」

…珍しい事もあるもんだな。

「では、立候補する人は、手を挙げてください」

…とは言っても、挙げる人はいない。

なら…私が…。

でも私が挙げると…皆がざわつくはず。

珍しい事もあるんだな、的な感じでこちらを見るはず…。

…でも構わない、私がやりたいのだから。

「…はい。私やります」

……。視線が集まるのを感じる。みんなきつと珍しいなと思って私を見て
いるんだ。

でも良いの、私だつてクラスの…

「じゃあ、未来さんに決定で良いでしょうか？」

はい

…え？

ざわつかない？

それどころか…認めてくれた？

…やったわ。

私も…クラスの一員になれたのね。

…暇だな。

アレからというものの、対した変化もない。

平和なのはいい事だが…何か起こらねえかな。

それから数日経ったが…まあ、起こらねえはな…。

…おかしいですわ。

何故でしょう、行く度に休みで、偶然居た日にも私の横を通り過ぎ
るだけ。

何故ですの…？ 何故気付いてくれませんか？

今この学校では、話題の物があります。

少し前は「発明の種」という物でしたが、今回は正式名がありません。
ん。形もストラップや

アクセサリー等様々で、皆お気に入りをつけています。

でも、私は持っていないません。学校近くの公園で露店商が売っていたと聞きましたが、部活があるので行けません。

その後でも、出てるみたいですけど、何とか手に入れないと…。とは思えないんですよ。

「発明の種」の時もそうでしたけど、何ででしょうか？

…ですが、話についていけないのはとても困っています。でも、思えないんです。

…実は手に入れるの、他の皆さんとは違って私だけですけど。とても簡単に出来てしまっんです。

その理由は…。

「ただいま」

「おう、お帰り」

「今日も行くの？」

「ああ、もう予約待ちさ」

「凄いな…」

「だから言ってるじゃねえか、一つやるって」

「ううん。いって、お客さんに渡してあげてよ」

「そっか…まあ無理には言わないさ」

「いってらっしゃい、お兄ちゃん」

「ああ、いってきます」

そう言っ私と入れ違いで家を出て行った。

私の兄が、話題の品の制作者なんです。

どこからか手に入れた材料で様々な物を作って、試しに露店で売ったみたらそれが売れてしまって、今では毎日忙しそうです。

以前は大学を中退してからはアルバイト生活をして休む暇が無い程でしたが。

アレによって今は今で休む暇が無い程です。

どっちにしても休む暇はないんですけど、以前と比べたら、兄は元

気になりました。
本当に……良かったです。

「…本当に、良かったです」

「ん？ どうかしたの？」

「えー！ い、いえ！？ 何でも在りませんです。先輩」

「そう？ 何か暗い顔してたような気がしたんだけど？」

「大丈夫です。ご心配おかけしました」

「そっか、じゃあ始めようか？」

「はい」

「あ！ そうそう、ちょっとコレ見てよ！」

「？」

そう言った先輩が取り出した物は、

「あ……」

兄の作品でした。その中でも小さい物で、先輩の携帯についています。

「やっと買えたんだよー。いやー長く待った会はあったねー、結構カワイイし」

「はい……とってもカワイイですね」

「本当はさ、先輩に見せたかったんだけど……」

「……」

私の入っている部活には2人の先輩がいるのですが、今日一人は学校を休んでいました。

「はあ……まあ、悔やんでも仕方ないよね。今日はたまたまかもしれないし」

「きつとそうですよ」

「よーし、そうと決めたら今日も頑張るぞー！」

「はい、頑張りましょう」

やっぱり、先輩は凄いです。
いつもより調子が良いようで、このままなら新記録です。
私は手に持ったタイマーを見ながらそう思っていた。

その時だった。

ガシャン

え…？

ボタン！ ガシヤガシャン！

「先輩！」

ハードルに足をひっかけて先輩は前のめりに倒れ、その上に倒れた
ハードルが乗っかってきました。

私は先輩に駆け寄りました。上に乗ったハードルを除け、

「先輩！ 大丈夫ですか！？」

「あ、いたた…うん。大丈夫だよ」

「先輩…良かった…」

「うーん…完璧だった筈なのになー」

「このままだったら新記録でしたよ」

私はタイマーを止めました。

「うん。私もそう思ったんだけどさ…何でかな？」

先輩が立ち上がりました。

チャリ

その時、先輩のズボンのポケットから、

「…先輩。ソレは…」

「ああ、コレ？」

ソレはやはり兄の作品で、携帯についていた物より少し大きめの
守りタイプの物でした。

「お守りと思ってもう一個買ってただけど…うん、効き目が無
かったな」

「……」

「ん？ どうかしたの？」

「い、いえ…何でも…ないです」

…やっぱりだ。

最近の出来事には全て、兄の作品が関わってるんだ。

「……それ、詳しく聞かせてもらえるかな？」

その時、声を聞きました。振り返って見ると、いつだったか、お会
いした女の人が立っていました。

「あ！ 恵里ちゃんじゃん！」

「え？ 先輩、ご存知なんですか？」

恵里さんとおっしゃるんですか。

「うん。前にちょっとね…その時に会ってると思うけど？」

そう言われて思い出してみると、

確かに…あれ？

「…先輩…その時…いらつしやいましたっけ？」

「あ！ え、えっと…その…」

確かその時、先輩は風邪で休んでいた筈だった気がしますけど？

「と、とにかく恵里ちゃん。久しぶりだねー」

「……うん、久しぶり」

恵里さんが近づいてきて、

「……でも、用があるのは…貴女の方」

「わ、私ですか？」

「そう…貴女…名前は？」

「ま、真菜です…桐川真菜」

「……貴女の思った事は、本当なの？」

「は、はい…おそらく」

最近になり、さまざまなことが起こっていた。内容は全部違うけど、共通して、思ったと売りにならなかったこと。そして、兄の作品を買ったすぐ後のことだと。

「……その売っている場所はどこ？」

「ここから暫く行った所にある公園だよ」

「……ありがとう」

「ねえ、ビーケちゃんも元気してる？」

「……」

恵里さんは手に持っていた箱の上面をこちらに向けた。

「ちゃん付けは止めてって言ったじゃないの」

「……」

は…箱が喋りました!?

「ゴメンね、ビーケ」

「たく…一度で覚えなさいよね」

先輩は平然と箱と話しています。本当に恵里さんのこと知っているんですね。

「ビーケ…話は終わり」

「分かってるわよ、直ぐに場所を見つけて…」

「ねえ恵里ちゃん、良かったら私が案内するよ?」

先輩は拳手して言いました。

「……どうする?」

「してくれるっていうなら甘えておきなさいよ。アタシも楽できるし」

「……じゃあ。お願いしても、いい?」

「任せて、直ぐに…痛っ」

先輩はその場に膝をついた。

「先輩! やはり足が…」

「いや、これくらいなんとも…痛てて…」

「……貴女は休んでて」

そう言った恵里さんは、「私の方に近づいて来て、

「…案内頼める？」

と、尋ねてきました。

「は、はい…分かります」

「じゃあ…一緒に来て」

(後書き)

基本的にどこから読んでも理解できるオモイノタネですが、今回は二部構成です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5729o/>

オモイノタネ 6 上

2010年10月29日19時01分発行